

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	放課後等デイサービス コーシュリー		公表日		令和 8年 3月 23日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		小集団、個別、大集団で活動場所を確保できている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	50%	50%	手のかかる利用者につきっきりになると、大集団でトラブルが起きやすいので、職員で声をかけながら支援している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		100%	低学年については構造化されている。	古民家のため、バリアフリーは難しい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		空気清浄機を各部屋に設置し、消毒等もまめにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		静養室や2Fに、こたつ部屋を設けている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	50%	50%	月に1回ターゲット行動をチェックし、全職員で共有している。	アルバイトにも、情報共有を徹底する。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%			保護者からの意向等を真摯に受け止め、改善できるところは改善していきたい。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		職員との一対一での面談を行っている。また、職員会議で意見を出し合って、改善に努めている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%		第三者による外部評価は行っていないので、検討したい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		週1回、職員の研修を行っている。	アルバイトにも、研修の機会を提供していきたい。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		前年から、支援プログラムを公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%		アセスメントは、直接保護者から聞き取りをして作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		保護者とのモニタリングの後、職員会議で情報を共有し、作成した計画書の内容を検討している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		計画書を基に、毎日の支援の計画を作成し、支援をしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%			すべてインフォーマルなアセスメントを使用している。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%			地域支援や地域連携には、力を入れている。周囲の方々の理解も深まってきている。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%			担当が立案を作成し、全員で話し合いの上決定する。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%		全職員のアイデアを積極的に取り入れ、飽きのこないプログラムを用意している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%		こどもの特性に合わせて、個別と集団活動を組み合わせて支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	83%	17%		支援開始前に打合せをする時間が取れない時もあるが、意図的に毎日行い、役割分担を明確にしていきたい。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	50%	50%		退勤する時間が違うので、全職員で打ち合わせはできないが、残った職員で支援の振り返り等をしている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		ケース記録の記録を踏まえ、次の支援につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		半年ごとにモニタリングを行って、見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	100%		こどもに応じて、4つの基本活動を念頭に置き、多角的な視点から支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%		まず、こどもの意見を聞いて、無理をせずにできることを促している。	
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		こどもの状況をよく理解している児発管が、会議に参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		関係機関との連携を大切に、積極的に支援会議をするように声掛けをしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%		毎月必ず、学年だよりのコピーを預かり、行事や下校時間の確実な把握をしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	50%	50%	相談支援事業所とは情報共有している。	就学前に利用していた保育所等とは、情報共有ができていない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%		特に、高等部の支援学校担任との協力体制はできている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	83%	17%	月に1回に外部から講師を呼び、スーパービジョンをしている。	児童発達支援センターとは、今後連携を図っていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	100%		土曜体験で、年に2回交流を行った。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		100%	協議会等には積極的に参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%		毎日、お迎えの際に、お子さんの状況を伝えられている。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%		ペアトレは毎年実施している。		
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約の際は、必ず丁寧に説明をして、同意されたのちに署名をいただいている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		モニタリングを丁寧に行い、こどもや保護者の意向を最優先に考えて作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%		きちんと説明をして、保護者の同意を得た上で、計画書の同意を得ている。	

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		保護者からの相談には、積極的に応じている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		100%	保護者同士の交流のイベントは毎年企画している。	年々、参加者が減っているのので、親子向けのイベントを企画していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		苦情の記録は必ず残し、再発防止に努めている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		毎月、通信を発行している。活動の様子等をインスタグラムで発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		個人情報の書類は、事務室の鍵付き書庫に保管して、厳重に管理している。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		視覚的にわかるように、写真や動画を見せて情報伝達をしている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%		地域の方を招待はしていないが、行事ごとにお手紙やプレゼントを、子どもたちと一緒に渡しに行っている。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	50%	50%	マニュアルは策定している。発生を想定した訓練も行っている。	家族等に一部周知していないので、周知を徹底する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		避難訓練は、定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	83%	17%	服薬は一覧表にして職員に共有している。	予防接種の状況は把握していない。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		食物アレルギーは、医者からの指示書を把握し、事務室に提示している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全計画に基づいて研修を行っている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		100%		安全計画は、一部の保護者には周知していないので、早急に対応していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハットの際には、報告書を必ず作成し、全職員に情報を共有し、再発防止に取り組んでいる。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		定期的に外部の講師を呼んで、虐待防止の研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%		基本的に身体拘束はしないが、やむを得ず身体拘束をする場合があることを、保護者に十分に説明している。		